

青森県
秋季高校野球

秋季青森県高校野球選手権第2日は17日、3球場で2回戦8試合が行われた。県南勢は工大一が五所川原に快勝し、コールド発進。八学野西は大間の猛烈な追い上げを振り切った。今夏の甲子園出場校で、予選免除だった八学光星は弘前東に逆転負

け。八戸北は追い上げ届かず弘前に敗れた。大湊は一時は6点のリードを奪いながら青森北に逆転負けした。工大二は青森商に、6校連合（七戸、六ヶ所、野辺地、浪岡、五所商、松風塾）は青森山田に敗れた。

19日に県営と弘前市はるか夢の2球場で予定されていた準々決勝4試合について、県高野連は台風14号の接近を理由に21日に順延することを決めた。

（取材班）



野西強力打線 大技小技11点

工藤友大当たり4安打

八学野西が長打を含む11得点の猛攻で8強入りを実現した。要所で送りバントも絡めながら、大技小技で相手先発を攻略した。本塁打は、先頭打者が出て送って、中軸が返す。堅実に点を取る流れがしっかりとできていた。と、チームの成長に目を細めた。

ハイライト

強力打線あつて、10打点のうちチーム最多の3打点をマークしたのが3番工藤友大。初回は死球の走者をバントで送って1死二塁の場面で、流れを引き寄せる先制の中前通し打。四回には越えに2点二塁打を放った。六回は無死一塁から右前打と一盗で好機を

反撃許した終盤は反省材料

拡大 この試合野西4安打の当たりで、次に打てる打撃ができた。と胸を張った。攻勢がチームとしてかみ合っていた。悔やまぬのは七回以降の守りのほころび。214番手の投手は合わせで四死球。暴投3と制球が苦しんで、失策や記録に表れない判断ミスも出て、相手の反撃を許した。

十和田地区勢は唯の勝ち残りとなった八学野西。工藤友は準々決勝に向け、守備のミスは要らない。勝つ一瞬間にアウトを取って打ち勝つ力を求めた。

（加藤弘也）

【大間】八学野西4回八学野西の死一、二塁、工藤友喜（右）が中越えの二塁打を放つ。5-1とする。|| はるか夢



【大間】八学野西6回八学野西無死一塁、大間は一盗を狙った一走田頭盛輝（右）を遊撃手富岡陽馬がタッチアウトに仕留める

10人の秋 大間健闘 終盤3点差まで迫る粘り

○：初のむつ地区第1代表として登録選手わずか10人で県大会の初戦に挑んだ大間。さすがに最大9点のハイライトは返せず、初戦で敗れた。加藤和八監督は「基礎的な技術が不足していた」と完敗を認めた。打線が直球130球、相手を先発を六回までわずかに安打と攻めあぐね。先発工藤翔馬は打ち込まれた。目いコースに入った変化球を狙われた。相手捕手がマウンドを降りた七回以降は四死球などにも垂れて3点差まで迫り上げる粘り強さを見せた。工藤は「負けはしたが、攻めの気持ちを持って攻めるところができた。もっと打撃を強化し、求春は県大会1勝を目指すと、さらなるレベルアップに燃えている」。